

静岡県漁業協同組合連合会
1072 静岡市追手町 9-18
15.12.12 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 第9回県青年・女性漁業者交流大会開催 県知事賞に稲取漁協青壮年部が受賞

県並びに本会主催、県信漁連後援による第9回静岡県青年・女性漁業者交流大会が去る12月5日もくせい会館(静岡市)において、県下漁協青壮年部・女性部員約150名の参加のもと開催されました。

今回は、「シラス船曳網漁業の流草木対策に取り組んで」(大井川漁協青壮年部 村松進氏) 「沼津の海をまもるため」(沼津市漁協青壮年部連絡協議会 加藤英二氏) 「キンメダイよどこへ行く！」(稲取漁協青壮年部 石黒広幸氏) 「アサリの天敵を味方に」(浜名漁協新居女性部 斎藤和子氏)の4件の発表と「養殖現場のHACCP導入における先進地視察について」(富士養鱒漁協 武田富男氏)並びに「スジアオノリ養殖先進地への視察-2」(浜名漁協鷺津支所 浮海 豊氏)と題した県外先進地視察報告が行われたほか「バス釣におけるルアーカラーと釣果の関係について」(県立焼津水産高等学校航海工学科航海コース3年 岩本 章君)の生徒研究発表が行われました。

夫々4件の発表は審査委員8名(審査委員長：村松高明県水産試験場長)による厳正なる審査が行われた結果、稲取漁協青壮年部が「広域回遊を行うキンメダイ資源は長期間に亘り広域的に管理を行うことが重要で、この取り組みは大きな意義をもつ」と高く評価され、最優秀賞(県知事賞)に選ばれました。また、浜名漁協新居女性部が「ツメタガイを購入したいという人が増え、商品として価値が出てくれば駆除効果は一層高くなり今後の活動が期待されるとし、特産物のPRや魚食普及、環境改善など多岐に渡り活動している」と評価され女性代表として稲取漁協青壮年部とともに、明年3月上旬開催予定の第9回全国青年・女性漁業者交流大会に出場することが決定しました。

2. 海洋深層水2003焼津大会開催される

第7回海洋深層水利用研究会全国大会(焼津大会)が、去る12月3、4日の両日、焼津市文化センターで国や県など地方自治体、大学、企業や個人など全国の海洋深層水研究者等約300人が出席して開催されました。

大会は、主催者の海洋深層水利用研究会酒匂敏次会長(東海大学海洋学部教授)の挨拶に続き、大会実行委員長の村松高明県水産試験場長が挨拶を行い次に、石川嘉延県知事並びに、戸本隆雄焼津市長が夫々祝辞を述べました。その後、静岡大学院理工学部岩田茂哉氏らによる「駿河湾における水塊構造の変動とその影響」など深層水の水質関連や取水施設、水産・農業・医療・健康、エネルギー、氷、システム、食品の利用関連など51件の多岐にわたる海洋深層水関連の研究結果が発表されました。

大会終了後、出席した研究者等は新焼津港に整備された県の駿河湾深層水取水供給施設、焼津市の深層水脱塩施設や、整備中の深層水関連施設を視察しました。

3. 平成14年遊漁採捕調査報告 遊漁者は延べ448万7千人

農林水産省統計部はつくり育てる漁業及び資源管理型漁業の推進、遊漁の適切な管理

を推進する基礎資料として、14年の遊漁採捕報告書を取りまとめました。

それによると、平成14年1月から12月までの1年間に、海面で遊漁船を利用して船釣りの案内を行った業者は1万4千3百業者(前年比15%減)となりました。また、遊漁者数は延べ448万7千人(同23%減)で、総採捕量は2万9千3百トとなり、これは沿岸漁業漁獲量の2%に相当します。

大海区別案内業者数では太平洋中区が最も多く3千270業者(全国比23%)、次いで瀬戸内海区、東シナ海区で、上位3海区で全国の5割強を占めています。都道府県別の割合では北海道の9%を始め宮城県、千葉県の順で上位10都道府県で全国の5割強となりました。

都道府県別での延べ遊漁者数は、神奈川県が106万9千人(全国比24%)で最も多く、次いで千葉県が64万8千人(同14%)、静岡県が35万6千人(同8%)となっており上位を太平洋中区に属する県が占めました。魚種別遊漁採捕量では、マアジが5,070トで最も多く次いでイサキ、ブリ類、マダイ、スルメイカで上位5魚種で全魚種の44%を占めました。

4. 水産庁が魅力ある漁村づくりへ支援

水産庁は来年度から3年間、漁村への国内外からの観光客の誘致や転入者を増やそうと、自治体や漁協などで進める「魅力ある漁村づくり」を支援していきます。観光案内所の設置や花壇の整備・管理、生け垣づくりなど地域独自の景観づくりなどに必要な費用を最大半額補助する考えで、来年度単年予算として2000万円を財務省に要求します。

この漁村づくりは、外国人観光客も誘致するため、ボランティアガイドなど人材育成を支援するほか、漁村内などへの外国語の案内看板設置も進め、外国人が一人でも多く歩ける漁村づくりを目指します。

また、同庁は地域文化を紹介する博物館や避難所、非常食保管庫など防災施設の整備、漁業体験用船舶の導入などハード面を支援する新漁村コミュニティ基盤整備事業と併せて、総合的な漁村整備に着手する方針です。

5. 「海の森づくり」映画コンクールで金賞

日本水産資源保護協会が水産庁委託で作成した短編映像「海の森づくり」が、11月11日に開催された第47回日本紹介映画・ビデオコンクール最終審査委員会で第2部門(日本の科学技術・産業・社会一般に関するもの)で金賞を受賞しました。

「海の森づくり」は、水産庁の2002年藻場・干潟環境保全事業の一環で製作された、21分の短編映画で、稚魚や幼魚を保育、沿岸の水質を改善する浄化装置でもある藻場が、水質悪化や磯焼け、埋立などで年々減る中、藻場を再生する取り組みを紹介しその活動の重要性を伝える内容となっています。

6. 諸会議日程(12月16日(火)～12月29日(月))

- 既報分省略 -

12月18日(木) 県漁協組合長会議・県水産振興推進協議会

= 県副知事・農林水産部長への陳情

12月18日(木) 県漁港協会 = 第56回全国漁港漁場大会幹事会 (県水産会館)

12月19日(金) 県遊漁船業協会 = 主任者講習会 (清水漁協)

12月22日(月) 県桜えび漁業組合 = 役員会 (県水産会館)

12月29日(月) 県漁連 = 仕事納め